

令和7年5月16日

令和7年度病害虫防除技術情報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

カンキツ、カキ、キウイフルーツの開花期の防除を徹底しましょう

向こう1か月の季節予報（大阪管区気象台5月8日発表）によると、近畿地方の降水量は多い確率が40%と予想されています。カンキツ、カキおよびキウイフルーツでは開花期の多雨により灰色かび病の発生が助長されます。また、キウイフルーツでは多雨で花腐細菌病の発生が助長されます。開花期から落弁期にかけての防除を徹底しましょう。

＜カンキツ＞

1. 灰色かび病

- 1) 発生時期：5月
- 2) 特徴
 - (1) 開花期から落弁期にかけて降雨、曇天が多いと枯死花弁上で病原菌が繁殖し、これが幼果に付着、感染して傷果の原因となります。
 - (2) ウンシュウミカンやレモンなど花弁が残りやすい品目や、着花数の多い樹では被害が発生しやすいため、薬剤散布による防除が必要です。
- 3) 防除対策
 - (1) 薬剤防除は満開期の散布を基本とします。満開期に防除できなかった場合は、早急に散布を実施しましょう。また、満開期以降も花弁に発病がみられ、落弁が終わるまで多雨が予想される場合には追加散布を実施します。
 - (2) そうか病や黒点病にも適用がある薬剤を選定すると同時防除ができるので効率的です。

＜カキ、キウイフルーツ＞

1. 灰色かび病

- 1) 発生時期：5～6月
- 2) 特徴
 - (1) カキでは花弁やがく片が発病すると、落花後、果実の表面に小黑点を生じます。発病が著しい場合は落果することもあります。
 - (2) キウイフルーツでは落弁期の花弁や雄ずいに発病し、分生子が幼果に付着すると傷果の原因となります。発病が著しい場合は落果することもあります。
- 3) 防除対策
 - (1) 開花期に多雨が予想される場合は、開花前～開花終期に薬剤防除を行いましょう。
 - (2) 罹病葉や罹病花弁は早めに除去しましょう。

＜キウイフルーツ＞

1. 花腐細菌病

- 1) 発生時期：5～6月
- 2) 特徴
 - (1) 花蕾周辺で増殖した病原菌が花蕾内に侵入すると、がく片及び花弁が褐変し、激発すると落蕾します。花蕾の感受性は開花30日前～10日前に高まります。
- 3) 防除対策

- (1) 本病に対しては、開花 30 日前～20 日前の主幹の環状剥皮が有効であり、通常は薬剤散布の必要性は低いです。ただし、開花期前後に多雨が予想される場合には、降雨前に適用がある農薬を散布しましょう。

和歌山県農作物病害虫防除所

カンキツ

有田川駐在 電話：0737(52)4320

カキ・キウイフルーツ

紀の川駐在 電話：0736(73)2274